ポジティブ行動支援（PBS）
実践事例集Ⅴ

徳島市方上小学校「方上っこキラキラプロジェクト」

01　スクールワイドで始めよう！
～実践園・学校の取組～

02　PBSの手法を取り入れた
学級経営・授業改善

03　とくしまPBSアワードレポート
～応募事例の紹介～

2024年、「ポジティブ行動支援をとくしまのあたりまえに」の合言葉のもと、園・学校全体で取り組むスクールワイドPBSモデル事業がスタートしました。

県内の幼稚園1園、小学校5校、中学校4校が実践を進めています。本事例集は、実践園、学校のスクールワイドPBSの「第一歩」を中心に掲載しています。

ぜひご覧いただき、実践園・学校と共に、スクールワイドPBSの第一歩を踏み出してみてください！

このパンフレットは、
徳島県教育委員会「新時代『発達障がい教育』推進プロジェクトチーム」が監修しました。
表紙監修：大久保　賢一（畿央大学教授）

令和7年3月　徳島県教育委員会

01 スクールワイドで始めよう！～実践園・学校の取組～

※ポジティブ行動マトリクスについての解説や作成手順については「特別支援まなびの広場」ホームページに解説あり

園・学校全体で取り組む スクールワイドPBSモデル事業とは

令和6年度から7年度にかけて4市(1園9校)がスクールワイドPBSを実践しています！

※ 川島小学校、脇町小学校は、以前からスクールワイドPBSを実践しています

徳島県では、令和4年度からすべての園・学校でポジティブ行動支援が実践されています。また、スクールワイド(園・学校全体)で実践していると回答した園や学校は80%にのぼり、本県PBSは新たなステージへと進み始めています。

市町村教育委員会と連携を図りながら、スクールワイドPBSを実践している園・校に対する支援体制を強化し、取組の質を向上させることで、よりPBSの効果を高めていくことを目的として、令和6年度より本事業がスタートしました。事業に応募した徳島市・小松島市・吉野川市・美馬市の4市1園9校が、実践園・校としてスクールワイドで実践を始めています。※

それでは、実践園・学校一年目の取組を少しご紹介します。「これからスクールワイドで実践していこうかな」「どのように進めるといいんだろう」とお考えの園・学校の参考になりますように…

監修 大久保 賢一（畿央大学教授）

たいせつにしよう ～じぶん・ともだち・もの～

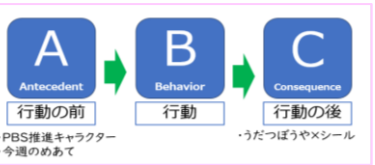
美馬市立脇町幼稚園

は、本事業唯一の"実践園"として、スクールワイドPBSを実践しています。

年度当初、職員研修の中で「幼稚園での生活を通してチャレンジ精神や思いやりの心を育ててほしい」「共に頑張ることの楽しさを感じてほしい…」など、教員の「子どもたちにこんな姿になってほしい」という思いを出し合い、ポジティブ行動マトリクス(「3つのたいせつ」)を作成して実践をスタートしました。

まず、園児が興味をもって取り組むことができるように、オリジナルキャラクターを作成しました。そして、望ましい行動を「今週のたいせつ」として子どもたちに示し、実践していきます。親しみやすいキャラクターとともに、目標に向かって頑張ろうとする子どもたちの姿が見られました。

取組のポイント
オリジナルキャラクターの作成
→行動の前(A)と後(C)で活用可能
年間を通して何度でも活用でき、活用するたび愛着が生まれ、実践意欲が高まる



「うだつぼうや」目標達成でシールを貼ることができます！

がんばったね！すごい！

みんなで実践！

「今週のたいせつ」をみんなで共有

今週のたいせつは「せすじぴん」だよ

子どもたちにめあてをお知らせする「あいっこちゃん」

実践開始

教員の思いを形にしたポジティブ行動マトリクス「3つのたいせつ」が完成

職員研修の様子

監修 田中 善大（大阪樟蔭女子大学准教授）

方上っこ キラキラ プロジェクト ～相手の方を見て話を聞こう 編～

徳島市方上小学校

の実践を紹介します。

ポジティブ行動マトリクス「方上っこキラキラプロジェクト」が完成し、11月から「相手の方を見て話を聞く」キャンペーンをスタートしました。

望ましい行動を引き出す工夫として、朝会でモデリング動画を視聴しました。「相手の方を見て」とはどういった行動かを、視覚的にわかりやすく伝えることで、児童・教員双方の標的行動が明確になりました。

児童も先生もわかりやすいポジティブ行動マトリクスが完成！

また、実践にあたって、職員研修で「褒め方演習」を実施しました。望ましい行動を繰り返しやすくする工夫では、教職員の「褒める・認める」姿勢が基本となります。演習を通して、称賛・承認のバリエーションを増やすことができました。また、望ましい行動を具体化したことによって、児童の望ましい行動に対して、すべての教職員が同じ基準で称賛・承認できるようになり、より一層実践の効果が高まりました。

実践の流れ

できたら教員が花を贈呈

掲示物に花を貼る
(児童の頑張りを可視化)

取組のポイント
マトリクス作成や校内研修などを通して、全教職員が同じ方向を向いて実践をすすめることができた
(SWPBSの意義・意図の共有)

監修 庭山 和貴（大阪教育大学准教授）

自ら考え、発信・行動する 児童の姿をめざして

小松島市芝田小学校は、全校児童51名の小規模校です。実践にあたり、5月に実施した「学校生活に関するアンケート」結果等をもとに、教職員で分析を行い、児童のめざす姿を考え、行動計画を立てました。

行動計画
① 生徒指導主任が朝会で発表していた「月目標」を児童が考えて発表
② 委員会活動を活用し、5・6年生が全校児童に発信
③ 全職員でサポート

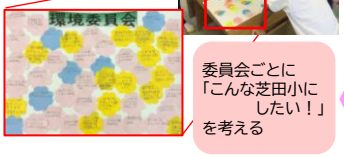
行動計画のもと、今年度は集会委員会・保健委員会・図書委員会などが実践しました。2月末に再びアンケートを実施しました。「自分たちの取組で学校が変わった」という思いや「もっと良くしていきたい」という姿が増えていることを期待しつつ、2年目の実践を進めていきます。

優しく素直、落ちついて学習できる児童が多いですね！

言われたことはできるけど、自分から働きかける姿はあまり見られない？

【めざす子ども像】
「自ら考え、発信・行動する児童」に決定！

委員会ごとに「こんな芝田小にしたい！」を考える



10月の実践（集会委員会）

ふわふわことばをつかってみんながやさしく楽しい学校にしよう

できたらシールを貼っていきます

行動を増やすために

取組のたびに学校だより「わかたけ」で発信

取組のポイント
・委員会活動を活用したことで、児童が自ら考えて行動できた。教職員も深く実践に関わることができ、スクールワイドPBSの効果が更にアップ！
・発信力の高さ（保護者や地域をまきこんで）

監修　野田　航（大阪教育大学准教授）

「なかまの像」プロジェクト ～チャイムの合図を守ろう～

吉野川市立学島小学校は、これまで大切にしてきた「なかまの像」（50年以上受け継がれてきた「みんなが明るく楽しく過ごせる学島小学校」という先輩達の思いの象徴）を取組の中心に据え、スクールワイドPBS一年目の実践をスタートしました。

「なかまの像」についての紙芝居を読み、意欲を高められるようにするとともに「チャイム着席」という望ましい行動を引き出すために、教員が寸劇を披露し、良い例と悪い例を分かりやすく伝えました。

その後、校長先生から各学級にビー玉を入れる容器が贈呈され、望ましい行動ができたらビー玉を貯めていき、いっぱいになると「休み時間が長くなる」というご褒美があることを周知しました。職員室に取組前の記録を提示し、共有するとともに、実践中は、毎日容器の写真を撮影し、増加の様子や達成状況が分かるようにしました。また、取組の様子などを学校ホームページで発信しました。

毎日児童が集まる「なかまの像」横に容器を設置して、毎時間ビー玉を貯めることで全児童の意識が高まりました。児童同士で声をかけ合って、チャイム着席する姿が増えてきています！

教員による寸劇を披露

学級全体でできている割合（基準）	
5	90%以上（とてもよくできている）
4	70～89%（よくできている）
3	50～69%（できている）
2	30～49%（できていない）
1	30%未満（まったくできていない）

期間を設けて、学年ごとに取組前の記録をとる

取組状況が分かる写真を掲示

取組のポイント
・園・学校の伝統や大切にしているもの、特色ある取組などをスクールワイドPBSの実践に生かす（PBSと既存の活動や行事の融合）
・取組前の記録をとり、より効果的な実践へ

監修　大対　香奈子（近畿大学准教授）

南部NNBプロジェクト 達成への取組

徳島市南部中学校は、生徒数657名、教職員数50名と、県内では規模の大きな中学校です。

スクールワイドPBSを進めていくためには、教職員が同じ目標をもって取り組んでいくことが大切です。そこで年度当初、新組織による初めての職員会議のなかで、PBSのミニ研修を行い、全教職員で取組の方向性を確認し「生徒会主体でスクールワイドな取組を広げていこう」と、南部NNBプロジェクトがスタートしました。

はじめに、生徒会役員と生徒会担当教員が中心となって、マトリクスの作成に取りかかりました。

【南部中実践の流れ】
①生徒会役員を中心にマトリクス案を作成
②教職員からは主体的に目標を考えられたことへのフィードバックを行い、さらにアドバイスすることでマトリクスを更に具体化
③マトリクスの完成！
④生徒会によるモデリング動画の作成・放送（ポジティブ行動マトリクスの周知）
⑤各学年で実践スタート！
⑥生徒会主体で「挨拶運動」キャンペーンを実施予定

マトリクスのタイトルは
南中生Nice Next Behavior プロジェクト
～すてきな次の行動～です！

3つの大切を
「凡事徹底～コツコツ努力～」
「切磋琢磨～グングン成長～」
「限界突破～ドンドン挑戦～」に
決定しました！

生徒会役員対象PBS出前授業の様子

マトリクス完成後、全校生徒への周知方法を考えました。全校生徒・教職員に分かりやすく伝えるための方法として、生徒会が中心となって「生徒会長による周知動画」を作成して放送しました。また、目標が確認しやすいように、各学年の廊下に学年ごとののポジティブ行動マトリクスを掲示しました。現在、生徒会の前向きな取組を先生方が後押しして、各学年主任を中心に、特色あるキャンペーンを実践中です。

取組のポイント
学校規模や学校の実情に応じて、全校生徒・教職員への周知方法を工夫
（中学生ならではの楽しいモデリング動画により、やる気がさらにアップ！）

監修　庭山　和貴（大阪教育大学准教授）

PBSの理念を生徒会活動に・・・

小松島市小松島中学校は、生徒会活動を通して生徒の主体性を育むために、PBSの考え方を生徒が学ぶところから実践を始めました。

PBSコンサルタント（特別支援教育巡回相談員）

教職員研修の様子

従来の小松島中学校生徒会活動は、中央委員会（本部役員・生徒会専門委員・学級委員で構成）で各学級の「課題」が出され、それを改善するために各委員会で具体的な取組を考えるという「課題解決型」の活動が中心でした。また、会議での意見も「○○をしないようにしよう」「○○を注意しよう」といった、問題行動をやめさせるような意見が多数を占めていました。

そこで、生徒たちが望ましい自分や学校の姿をイメージしながら、前向きに考え、行動できるように、生徒向けの出前授業を実施して、前向きな考え方で話し合いを進めていくことの大切さを学ぶ機会を設けました。同時に教職員研修も実施し、生徒の望ましい行動に目を向けるポジティブな生徒理解や言葉かけの大切さを学びました。

生徒たちの感想を見てみると、しっかりとPBSの理念が伝わっていることを感じます。今年度、新たな生徒会活動（わくわく活動）として、各専門委員ごとに自由に意見を出し合い、自分たちで企画し、実践する活動を始めました。新しい試みで難しいところもありますが、次年度も、主体性を育むことのできる生徒会活動を継続していきます。

生徒の感想
※一部抜粋

できていないところに目を向けるよりも、できているところに目を向ける大切さを学びました。これからの専門委員会でも、どうしたらみんなのやる気がでるのかを考えながら活動していきたいと思います。

ネガティブな考え方をするのではなく、ポジティブな考え方をすることで問題を早く解決することや、明るく取り組むことにもつながると感じた。望ましい行動を引き出し、繰り返させる工夫を考えていきたい。

取組のポイント
生徒に対しPBSの考え方や理念を丁寧に伝え、実感できることで、望ましい行動の増加へとつながり、すべての教育活動のベースにPBSが位置づけられる！

監修　野田　航（大阪教育大学准教授）

基準を明確にして取り組む

吉野川市立川島中学校は、ポジティブ行動マトリクスを作成後「ロッカーの整理・整頓」を目標にして、キャンペーンを実施しました。

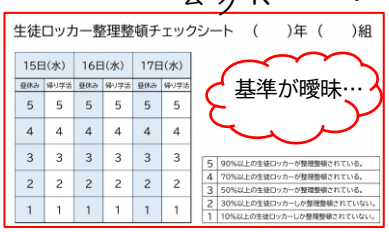
中心となって実践を進めていくのは、各クラスの「リーダー会」のメンバーです。実践前に、現状把握期間を設けて、ロッカーの整理・整頓についての課題などを話し合い、チェックシートを作成しました。

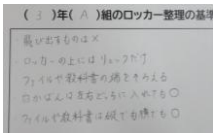
しかし、どこまでできていればOKなのか、基準が曖昧だったため、各クラスごとに基準を考え、リーダー会の中で共有しました。

基準をもとに望ましい整理・整頓のモデルを作り、写真に撮って周知を行いました。キャンペーン期間を5日間とし、最初の2日間はリーダー会のメンバーも教員も様々な場面で言葉かけを行い、できていれば称賛しました。残りの3日間は、自分で気づき、考え、行動できるよう、できる限り見守りながら、望ましい行動を称賛していくことを心がけました。

キャンペーンの周知

基準表をもとにリーダー会がチェック





ロッカー整理実施期間

20日(月)～24日(金)の5日間

20日(月), 21日(火)
・クラス全体にロッカーを整理するように様々な場面で声かけを行う。
→できていればほめる。
できていなければ、サポートする。(リーダー会のメンバーと共に)

22日(水), 23日(木), 24日(金)
・クラス全体にロッカーの整理をするように声かけをする必要なし。
→自ら行動できるようになってほしいため。
できていればほめる。
できていなければ、サポートする。(リーダー会のメンバーと共に)

	自律（凡事徹底）	尊重（思いやり）	共創（チャレンジ）
授業	○2分前着席をしよう。 ・授業の準備 ・プリントの整理整頓 ・前回の授業の復習 ・係の仕事	○先生の話をしっかり聞こう。 ○お互いの意見を認め合おう。	○よく考えて、自分の答えを持とう。 ○毎時間「わかる」「できる」喜びを感じよう。
生活	○あいさつをしよう。 ○時間を守ろう。 ○約束を守ろう。	○「ありがとう」「ごめんなさい」をきちんと伝えよう。 ○たくさんの人と話をしよう。	○「一緒にやろう」と言える場面や仲間を増やそう。 ○みんなが幸せになれる言葉を使おう。

取組のポイント
ターゲットとなる行動（ロッカーの整理・整頓）について、生徒自身で良い例や悪い例を出し合いながら基準を考え、共有し、効果的に実践をすすめることができた

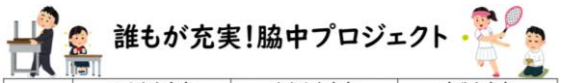
監修　大対　香奈子（近畿大学准教授）

誰もが充実！脇中プロジェクト

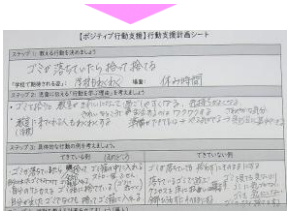
美馬市立脇町中学校では、スクールワイドPBSを進めるにあたって、生徒、教職員全員が同じ目標をもって実践を進めることができるように、まずは研修を充実させて、PBSの理解促進に努めました。

脇町中学校のスクールワイドPBS１年目のスケジュール

期　日	詳　細	
6月12日 7月17日	校内研修 生徒会	中学校におけるポジティブ行動支援 PBSとは　ポジティブ行動マトリクス作成
10月　4日 10月16日	校内研修 校内研修 （メンターチーム）	学校見学、コンサルテーション、 推進チームとの協議 行動計画表作成、取組の計画 生徒の情報共有、実践計画
12月 11日 12月23日 1月 2月　7日	(新)生徒会 生徒会 生徒会	PBSとは　ポジティブ行動マトリクス決定 ポジティブ行動マトリクス全体発表 あいさつプロジェクトの話し合い 本校の取り組み発表



	みんなも充実	あなたも充実	自分も充実
授業中	□宿題を期限までに提出する □失敗を恐れずに、積極的に意見を発表する	□相手の話をしっかりと聞いて考える □ハキハキと話す	□授業は私語をせず、うなづきながら聞く □トイレは授業前に済ませる
休み時間	□ゴミが落ちていたら拾って捨てる □トイレをきれいに使う	□相手の良いところをほめる □素直に「ありがとう」「ごめんなさい」と言う	□規則正しい生活をする □整理整頓をする
マナー・責任	□丁寧な言葉遣いで話す □掃除が始まったら早く掃除分担に行く □黙々と時間いっぱい掃除する	□人に会ったら自分から笑顔で挨拶をする □係や委員会の仕事に助け合って取り組む	□黙想のとき、全員が目を閉じて一日の反省をする □自分から進んで係の仕事をする


行動計画を立てて、実践へ・・・

教員が作成したポジティブ行動マトリクスと、生徒会が作成したものを比較してみると、多くの共通点が見つかりました。そこで、PBS推進チームを中心にじっくりと検討を重ね、お互いの意見をうまく組み合わせて、ポジティブ行動マトリクスが完成しました。ポジティブ行動マトリクス作成を中心とした研修に時間をかけて取り組んできたことで、PBSの考え方が学校全体に浸透しました。

6/12校内研修「マトリクス作成」

7/17生徒会「マトリクスを作ろう」意見がたくさん出ました！

取組のポイント
・じっくりと研修を進めながらSWPBSの理解を深め、マトリクスを完成させた
・まずは学年や学級単位で少しずつ実践をスタートさせたところが成功の秘訣！

監修　田中　善大（大阪樟蔭女子大学准教授）

02 PBSの手法を取り入れた学級経営・授業改善

学級経営・授業改善 コンサルテーションについて

令和6年度、**吉野川市立川島小学校**で「学級経営」、**美馬市立脇町小学校**で「算数科授業改善」のPBSコンサルテーションを実施しました。両校では昨年度からコンサルテーションを実施しています。

【コンサルテーションの進め方】

授業の様子を観察
（リモートの場合はビデオで撮影・視聴）

コンサルテーション
（改善点や改善方法の提案）

学級経営・授業改善の実践

専用の電子掲示板で経過報告

コンサルテーション
（成果や効果の共有）

めあてが達成できたか否かを確認しながら改善していく

「称賛は大切だと思うけど、どうやって褒めたらいいのか分からない」「PBSで本当に授業が改善されるの？」という先生方必見！2校の実践を紹介します！

授業撮影後には、授業一コマでの称賛回数・児童の反応機会の数、授業参加率などについて分析したことを、フィードバックしていただいています。

授業の様子は、新時代「発達障がい教育」推進プロジェクトチームの先生方に分析していただいています。

学級経営コンサルテーション IN 吉野川市立川島小学校

川島小学校では、昨年度に引き続き、近畿大学の大対香奈子准教授にアドバイスをいただきながら、2学級で学級経営コンサルテーションを実施しました。（昨年度の取組は実践事例集Ⅳを参照）

コンサルテーションを実施した学級では、初めに児童の実態、担任の思いを踏まえた「クラスルームPBS指導計画」を作成して実践を始めました。

「学級で期待される姿」や「具体的な行動」「具体的行動を教える手続き」が決まると、実践開始です。

授業中、児童が積極的に自分の思いや考えを発表できるようにするために、まず授業の様子を撮影し、教師の称賛回数や児童の授業参加率を確認してみました。

すると、思ったよりも称賛回数が少なく、反対に注意や叱責をする場面が多いことが分かりました。

学習の流れが単調になってしまうと、友達とおしゃべりをする児童が増え、授業参加率が下がるということも動画で確認できました。

注意・叱責が増えると発表しづらい雰囲気に…

川島小学校のポジティブ行動マトリクス（3つの大切）と関連させて…

本気でやり隊
すてきになり隊
むてきになり隊

学級で期待される姿	指導場面での具体的な行動（「～する」）
やるき	授業中に1回はグループや全体に意見を言う
ほんき	朝、教室に入るときに自分からあいさつをする
むてき	教科書と筆記用具を準備して、チャイムの合図を自分の席で聞く

「やるき」に焦点をあてて取り組む！

「もっと意見を発表してほしいなぁ…」
「自分から挨拶ができるようになってほしい」
「チャイム着席や授業準備の習慣が身につくといいな！」

具体的行動を教える手続きを考え、実践
1. 具体的行動を説明する
2. 良い例と悪い例を示す
3. 練習する
4. フィードバックする

最初の授業撮影を終え、大対先生とのコンサルテーションを実施し、次のアドバイスをいただきました。

アドバイスを受け、「行動のABC」に沿って実践を始めました。

まず児童同士で話し合う機会を取り、全体での発表がしやすくなる「A」（行動を引き出す工夫）を実践しました。そして、ペア活動やグループでの話し合いの際には、教師が机間指導しながら自分の意見をだせていることを頻繁に称賛（BSP）する「C」（ポジティブフィードバック）で繰り返しやしくする工夫）を意識して心がけました。

まず称賛機会や回数が増えるように、ペア学習やグループ学習の進め方の手順を示します。

そして、手順にそって話し合いを進めている児童やグループを積極的に称賛（BSP）します。

すると話し合いがうまく進んでいかない児童やグループが「こうやって進めるといいんだ」と気づき、行動します。

それを捉えて称賛することを通して、望ましい行動が学級の中でどんどん増えていくことを心がけ、実践しました。

BSPやGP※の称賛回数、児童の反応機会（グループ学習や全員発声など）を増やしていきましょう！

称賛回数が増えると児童の発表も増加！

※BSP（behavior-specific praise）
言語称賛の中で称賛の対象となる具体的な行動について言及があるもの
GP（general praise）
称賛の対象となる具体的な行動について言及がないもの

コンサルを終えて（担任の声）

実践当初は、褒めることに慣れず、かなり意識しないとPBSを取り入れた授業ができませんでした。それでも繰り返し実践していくことで、次第に子どもたちの授業中の雰囲気や反応が良くなり、自分自身も自然に称賛することができるようになったと思います。まずは自分の得意な授業から実践してみると継続して取り組みやすいと思うのでおすすめです！

また、よりよい学級の雰囲気ができたことで、あいさつや授業準備の実践も取り組みやすくなり、学級経営がやりやすくなったと感じます。

注意や指導が必要な場面も当然ありますが「失敗を繰り返さないためにこれからどうすればよいのか」ということについて、望ましい行動を確認しながら児童と話し合うことができるようになり、これからの教職生活で役立つスキルが身についたと思います。

※以前の実践事例集にも学級経営や授業改善の取組が掲載されています

監修　大対　香奈子（近畿大学准教授）

授業改善コンサルテーション IN 美馬市脇町小学校

脇町小学校では、大阪樟蔭女子大学の田中善大准教授によるサポートのもと、2年目の授業改善コンサルテーションを実施しています。（授業改善の手法は実践事例集Ⅱを参照）

コンサル前に、今年度実践する学級の算数科の授業を撮影し、田中先生に分析してもらいました。すると、活動の時間がやや長いことから、課題ができた児童や、課題の内容が分からない児童の授業参加率が徐々に低下し、私語などの行動が現れ、教師が注意する回数が増えていることが分かりました。また、一つの活動時間が長いことで児童の反応機会も少なくなり称賛回数も伸び悩んでいる状況でした。

反応機会の設定

反応機会の設定は川島小学校の学級経営コンサルテーションでも実践しています。

反応機会とは「授業中に授業に関連する反応を児童たちにどれくらいさせたか」というもので、分析では次の5つに分類しています。

①全員発声（全員で言語的に反応する）
②課題従事（各自で課題に取り組む）
③ペア（ペアやグループでの学習）
④ジェスチャー（非言語で反応する）
⑤回答挙手（回答するために挙手する）

海外の研究から、反応機会は1分間あたり3回以上設定されると、児童の授業従事率が上がることが分かっています。また、小学校の平均は0.97回、中学校は0.69回とされています。

コンサルテーションで田中先生からアドバイスをいただき、「反応機会の設定」と「望ましい行動に対する言語称賛」を意識し、児童の授業参加率を高めていくことを次時の目標として、実践をはじめました。

コンサルテーション後の授業実践

授業前

・前時終了時に、次時の学習準備について伝える
↓できていたら言語称賛

導入部分

・問題文を全員で読む
・問題文をノートに書く
↓**机間指導**で言語称賛
「取りかかり早い！」「OK！」
「出来てる」
・めあての確認（全員で読む）
・めあてをノートに書く
↓**机間指導**で言語称賛
「さっきより早く書けたね！」

導入場面はテンポ良く進める、褒める！

自分で考える

・具体的な問いを準備して、児童が「いま何をすべきか」が分かるようにする
・時間配分の工夫
・**机間指導**で言語称賛
↓課題が難しい児童にはヒントカードを準備
↓考えようとしている姿勢を称賛

机間指導を多めに設定しましょう。言語称賛の増加につながります。
また「出来ていない子を見つける」のではなく、「すばやく取り組めている子」「課題が出来た子」を称賛し、授業に参加していない子どもたちに聞こえるように意識することで「○○するといいんだ」ということが伝わるようにしましょう。

みんなで考える

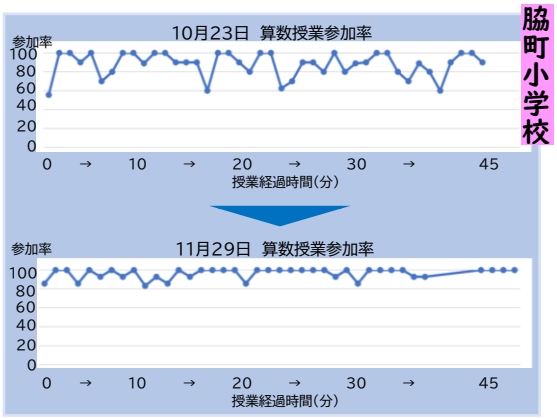
・ペアワークで自分の考えを積極的に発言できるように「間違ってもよい」「友達の意見を大切にする」というメッセージを、**机間指導**時などで常に発信する
・全体で話し合う際には、回答挙手の他、ハンドサイン（分かった人はパー、分からない人はグー）なども活用し、児童が「自分の考えを伝えられた」と思える工夫をする
・ふりかえりをノートに書く
↓**机間指導**で言語称賛
「○○についてよく分かったね、すごい」
・確認問題の実施
↓全員が正解できる課題を設定
↓「分かった、出来た」という気持ちで終える

課題が難しい子には「分からない」ということを伝えられることの大切さを教え、認める言葉がけをしましょう。大切なのは「何もしていない子」をなくすことです。

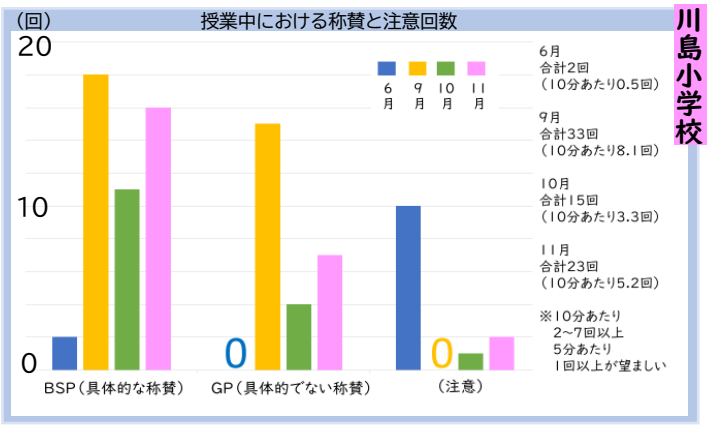
まとめ

コンサルテーションによる児童・教師の変容

脇町小学校



川島小学校



反応機会の設定と言語称賛を意識したことで、子どもたちの授業参加率が大きく改善されました。

授業者が机間指導時に「全員に」「短い言葉で言語称賛」を繰り返し実践したことにより、子どもたちの学びの意欲が高まると共に、友達の言語称賛を聞き「自分もやってみよう」「こうすればいいんだ」という気づきにつながっていました。

コンサル前（6月）とコンサル後（9月以降）を比べてみると、称賛が増え、注意の回数が大幅に減少しています。コンサルテーション当初に感じた緊張感がなくなり、子どもたちの笑顔や発表機会が増え、高い授業参加率につながっています。

授業者の表情も笑顔が増え、声のトーンがやわらかくなり、子どもたちとのやりとりが増加しました。授業の様子をみても、良い意味で自信や余裕を感じられるようになりました。

監修　田中　善大（大阪樟蔭女子大学准教授）

03 「とくしまPBSアワード」レポート

徳島県内のPBSの実践事例の蓄積と発信を目的とし、昨年度から「**とくしまPBSアワード**」を実施しています。

このページでは、ゴールド賞・審査員特別賞に輝いた取組を紹介します。その他の受賞事例は総合教育センターHPで公開しています。

受賞校による取組紹介
ゴールド賞　西井川小学校

本校の取組の特徴は、
①行動目標を三段階に設定
②一人一台端末の活用
です。①では、行動目標を「プロ」「名人」「達人」に整理し、評価する行動を決め、教員で共通理解して取り組んだことで、多くの児童を認めることができ、児童らも具体的な目標をもって取り組めました。②では、児童が帰りの会で一日を振り返り、タブレットの付箋に書き込みます。教師は、それを見て「児童が取り組んだが、教師が気づかなかったこと」「できなかったけれど、やろうとしている気持ち」までも認めることができました。タブレットを使い、振り返りが蓄積されていったことで、児童は以前と今を比較し、自分の成長に気づくことができたのだと感じます。これからも笑顔と感謝あふれる学校をめざし、PBSに取り組みます。

監修　野田　航（大阪教育大学准教授）

ゴールド賞
徳島市方上小学校

審査員（プロジェクトチーム）コメント
取組の成果を掲示物にすることで、子どもたちにとっても自分たちの頑張りが視覚化されてよいフィードバックになっていたと思います！今回は「話を聞く」でしたが、別の行動に対しても同じような声かけが応用できそうですね。

エントリーシート

学校名（方上小学校）
対象（学校全体）学年・学級・その他）

方上っ子　キラキラ　プロジェクト
『相手の方を見て話を聞こう』

望ましい行動を【引き出す工夫】
・朝会で全校児童に取り組みを周知し、モデリング動画を上映
・話を聞く時のポイントを具体的に示した掲示物を各教室に掲示（視覚的支援）
・各学年縦割りでの活動『なかよし班』（既存の取組）において、話の聞き方を練習
・教員から、1日の始めに話の聞き方のポイントを確認

【児童の望ましい行動】
相手の方を見て話を聞く

【児童の変容】
・児童が標的行動を意識して行おうとするようになった。
・授業にスムーズに移行できることが多くなった。
・児童同士で声をかけあい、標的行動を行おうとする姿も見られるようになった。

1日目→ 65こ
2日目→ 59こ
3日目→ 51こ
4日目→ 70こ

「キラキラの木」

【繰り返しやすくする工夫】
・毎時間の終わりに、教員が標的行動の達成度合いを評価
→6割達成で花1個
8割達成で花2個を贈呈
・放課後、校内全体掲示（キラキラの木）に獲得した花を貼りに行く。
→木に花が咲き、満開になっていく。
・取組後、朝会で全校児童に対して教員よりフィードバック

【引き出す工夫の写真】

朝会で聞くポイントを共有

なかよし班活動

視覚化した掲示物

【繰り返しやすくする工夫の写真】

・児童が放課後に獲得した花を貼っていき木を満開にしていく。

・朝会で花の数を伝え児童の良くなった行動を伝える。

【成功のポイント】
・モデリング動画や視覚的に分かりやすい掲示物を作成・活用したことで、具体的にどのような行動をとれば良いのかが、児童に伝わりやすくなった。
・教員も児童も標的行動について、意識することができた。
・全教員で実践について考える機会を設けることで、意図や意義を共有し、協力して取り組むことができた。

【取組の発信！】
・完成した掲示物を校内に掲示
来校者にも見ていただく。
→今後も、同様の取組を定期的に実施し、校内に掲示していく予定

監修　庭山　和貴（大阪教育大学准教授）

ゴールド賞
小松島市芝田小学校

審査員（プロジェクトチーム）コメント
委員会活動を活用した児童中心の取組が特徴的です。健康という目に見えないものを花丸貯金として視覚的に示すことで、児童が目標を意識するようになり、さらに努力に対するフィードバックにもなっている点がすばらしいです。家庭とも連携しながら、学校全体に前向きな雰囲気が醸成されていますね。

エントリーシート

学校名（芝田小学校）
対象（学校全体）学年・学級・その他）

健康にすごそう！～きっちり手洗い・もっさり朝ごはん・しっかり歯みがき～

望ましい行動を【引き出す工夫】
・月目標として、保健委員会が朝会で発表する。
・毎日、学級ごとに4つのチェック（ハンカチ・朝食・手洗い・歯みがき）をし、健康観察表に記入する。
・毎日、保健室前の掲示板に学級ごとの達成度を花丸で表示することを予告する。
・「手洗いの歌」「歯みがきの歌」を新しくし、全校児童の気持ちを高める。

【幼児児童生徒の望ましい行動】
きっちり手洗い・もっさり朝ごはん・しっかり歯みがき

【幼児児童生徒の変容】
・新しくなった「手洗いの歌」や「歯みがきの歌」に合わせて、ロずさみながら丁寧に手洗いしたり、しっかりと歯をみがいたりする姿が見られた。
・子どもどうしで声をかけ合い、ハンカチを忘れがちな児童もきちんと持ってくることができるようになった。
・他の学年の花丸を見て、「○年生に追いつこう！」「明日もパーフェクトを目指そう！」と目標をもつようになった。

【繰り返しやすくする工夫】
・「健康花丸貯金」と表示して、保健委員会が毎日の結果を掲示する。
・週ごとに花丸の数を合計し、1週目から4週目の伸びが分かるようにする。
・手洗いや歯みがきの様子を保健委員会が時々抜き打ちチェックして、各学年の頑張りやよさを認めてくれる。

【引き出す工夫の写真】

朝会で「健康花丸貯金」について説明

【繰り返しやすくする工夫の写真】

「健康花丸貯金」が日々貯まっていく仕組み

【成功のポイント】
・「めざせ！健康億万長者」を合い言葉に4つのチェックを毎日積み重ね、目に見えて花丸が貯まることで意欲が持続した。
・朝食や清潔なハンカチの用意など、家庭での協力が必要なことも、学校・学級・委員会からのお便りによって保護者の理解と協力を得ることができた。

【取組の発信！】
・保健委員会の児童が作成したお便りを家庭に配布した。
・学校便りや学級通信で取組の様子を紹介した。
・保健室前の掲示板に花丸グラフを掲示した。

監修　野田　航（大阪教育大学准教授）

※ホームページでは、ゴールド賞審査員特別賞、シルバー賞の事例を公開しています

エントリーシート

あいさつ・ありがとうの達人になろう！
～一人一台タブレットを活用して～

学校名（西井川小学校）
対象（学校全体）学年・学級・その他）

望ましい行動を【引き出す工夫】

・具体的な行動目標をの3段階に分け、それぞれを「プロ」「名人」「達人」と名付けることにより、児童一人ひとりが自分にあった目標を立てさせることができる。また、3段階にすることで各段階での評価もでき、多くの子どもたちに称賛の声を掛けることができる。そして、名人の段階が達成できれば、「次は達人を目指そう」といったように自分のペースで行うことができ、教員も長期的に児童の成長を見取ることができる。
・一人一台タブレットを活用して、自分の個人の目標に対する行動を帰りの学活で付箋に書き、振り返りすることで、自己の成長を自分で認められるようにした。
・全校朝会でPBSコーナーを設置したり、6年生が呼びかけることで主体性と協働性を発揮させた。

【幼児児童生徒の望ましい行動】

・自分から大きな声であいさつができる。
・「ありがとう」の後に「嬉しかったよ」などの気持ちを付け加える。

【繰り返しやすくする工夫】

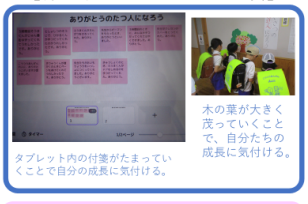
・タブレット内の自分のフィールドに付箋がたまっていくことで、自分の成長を視覚的に捉えさせることで、自己の成長を自分で自覚させることができる。
・タブレット内ファイルを教員と共有することで、児童の頑張りやできていなくてもやろうとする意欲も評価することができ、様々な称賛の声掛けをすることができる。
・タブレット内の友達のフィールドを共有することで、良い行動を知ることができ、「やってみよう！」という意欲につなげる。
・「あいさつの木」等をPBSコーナーに掲示し、シールを貼らせることで自分たちの頑張りを自分たちで評価できるようにする。
・木の葉の部分をだんだんと広げていくことで、木が成長していくようにし、楽しみながら取り組めるようにする。

【幼児児童生徒の変容】

【地域の人や学校来校者からの評価】
・「いつ来ても、大きい声で挨拶してくれるので気持ちがいい」という感想が聞かれた。
・「『いつも私たちのためにありがとうございます』と言ってくれて感動した」とボランティアの方から聞いた。
【児童のアンケート調査】
児童の意識調査（4件法）から平均値の高い質問項目
・「あいさつやありがとうの達人になろう！」と目標を決めて取り組むことで成長できる。（3.88）
・私は、4月の自分と比べて成長したと思う。（3.85）
・私は、周りの友達とうまくやっていくことができると思う（3.79）
・私は、4月の自分と比べて挨拶ができるようになった。（3.76）
・私は、4月の自分と比べて感謝できるようになった。（3.76）
【児童の自己評価】
・みんなが気持ちよく「ありがとう」と言ってくれるから幸せな気持ちで学校生活を送れるようになった。
・1日を振り返ることで、周りのありがたさに気付いた。
・タブレットに書いていたら、自分も自然に「ありがとう」が言えたり、人に優しくできたりするようになった。
・友達や先生、地域のみなさんに感謝することができるようになった。
・4月に比べて、誰かを助けたり、協力したり、優しくできたりしてやさしいと思う子が増えてきてる。

【引き出す工夫の写真】

【繰り返しやすくする工夫の写真】



【成功のポイント】

（ポイント1）「あいさつができる児童」と一概に言っても教員によって求めるものが違う。児童の実態を踏まえ、ワークショップで協働的にマトリックスを作成することにより、共通理解が図れ、どの教員も同じように児童に称賛の声を掛けることができる。また、3段階にすることにより、教員の意識のズレも逆に活用することができる。
（ポイント2）タブレットを活用しての自己評価を取り入れることによって、教員も過程を見取ることができるようになり、様々な声を掛けられるようになった。毎日の振り返りが自主性や協働性を促した。

ワークショップの成果物

【取組の発信！】

・学校のHPに掲載した。
・校長室だよりに掲載し、保護者に発信した。
・取組の成果を共有した。
・玄関の電子掲示板に提示し、教員、児童、来校者、保護者に発信した。

監修　庭山　和貴（大阪教育大学准教授）

ゴールド賞

三好市立西井川小学校

審査員（プロジェクトチーム）コメント

行動目標が段階別に分かりやすく視覚化されており、タブレットやあいさつの木などの繰り返しやすくする工夫が素晴らしいです。特に一人一台端末をスクールワイドPBSに効果的に活用されている点は、他校の参考になると感じる素晴らしい実践です。児童のアンケートや地域・来校者からの評価など、取組による子どもの変化を評価していく取組も素敵です。

エントリーシート

「チャレンジシート」で、チャレンジする心を育てよう～3年生～

学校名（加茂小学校）
対象（学校全体・学年）学級・その他）

望ましい行動を【引き出す工夫】

○「毎月チャレンジシート」の活用
◆自分でチャレンジ目標を設定
◆月の終わりに振り返り
・達成度★5つの内いくつか
・振り返り文
○各自の目標を一覧表に掲示
◆できた日に、シールを貼る

【幼児児童生徒の望ましい行動】

自分で決めた事を毎日チャレンジし続ける

【繰り返しやすくする工夫】

・「ちょっと苦手だけれど、がんばればできることを目標に」と声かけし、低い目標にして達成感が味わいやすいようにする。
・毎月のシートを透明ケースに入れ、自分もクラスの友達も見える場所に掲示し、声をかけ合う。
・できた日はシートにシールを貼る。
・できたことはその場で称賛する。
・毎日、目標のフィードバックをする。

【引き出す工夫の写真】

個人のチャレンジシート

目標一覧表とできたシール

【幼児児童生徒の様子】

・「帰りに黒板をきれいにするよ」など、人の役に立つ行動が見られるようになってきた。
・「1日1回は読書する」や「朝元気よくあいさつをする」など、自分の目標を達成するため、積極的、かつ活発な行動が見られるようになった。
・「1日3回～」など目標を振り返りやすいように数値で立てるようになってきた。

【繰り返しやすくする工夫の写真】

透明ケースに

チャレンジシートの掲示

【成功のポイント】

・ちょっとだけ低い目標にしてやる気を引き出した。
・達成度を、シールや★の数にして、視覚的に分かりやすいようにした。
・各個人の目標がすぐに確認できるように、教室の入り口の見える所に掲示した。
・チャレンジシートに毎月、自分の写真を入れ、体の成長も振り返られるようにした。
・学級全体で友達のがんばったことやうまくいったことを共有した。
・参観日におうちの人にも見てもらい、家庭でも声をかけてもらった。

【取組の発信！】

・参観日におうちの人にも見てもらう。
・他の学年も見えるように教室の外に掲示しする。

監修　大久保　賢一（畿央大学教授）

ゴールド賞

東みよし町立加茂小学校

審査員（プロジェクトチーム）コメント

PBSのキャンペーンでは具体的な行動を1つ決めて取り組むことが多い中で、さすがレジェンドの加茂小学校！子どもたち自身にチャレンジしたい行動を決めてもらい、取り組みを促したところがさすがです！PBSの進化型を見せていただきました。意識的に「達成の見通しが立つ、適切な高さの目標」を設定されたことも、成功のポイントだったと思います。

エントリーシート

“感謝の木” ～自他を認め、思いやりアップ!!～

学校名（吉野川市立鴨島東中学校）
対象（学校全体）学年・学級・その他）

望ましい行動を【引き出す工夫】

・学校行事わくわくノートを利用して、友達に目を向けさせた。

【生徒の望ましい行動】

友達のよいところを見つけ、伝え合おう

【繰り返しやすくする工夫】

・大きな行事を中心に、1年間を5つの期間に分けて実施した。

【引き出す工夫の写真】

←文化祭について記入した「学校行事わくわくノート」

↑「学校行事わくわくノート」を元に書かれた友達へのメッセージ

【生徒の変容】

・友達の行動に注目するようになった。
・自分のよいところやがんばりを仲間が認めてくれるようになった。
・仲間のよいところをもっと探そうとしている。
・学級全体・学校全体で思いやりが大事にされるようになった。

【繰り返しやすくする工夫の写真】

↑生徒からのコメントでいっぱいになった“感謝の木”

←いつでもコメントを書けるように廊下に回収箱を設置

【成功のポイント】

・大きな学校行事ごとに、感謝の木の取組をすることで、活躍する生徒が変わったり、個々の生徒のさまざまなよいところが見えたりした。
・職員研修を通して、教員間で目標を共有し、2分前着席の取組と並行して、“感謝の木”のポジティ行動支援を展開した。

【取組の発信！】

・生徒玄関に“感謝の木”を常設掲示している。
・コメントをエクセルファイルに集約し、教員間でデータ共有し、生徒や保護者にフィードバックしやすくした。

監修　大久保　賢一（畿央大学教授）

審査員特別賞

吉野川市立鴨島東中学校

審査員（プロジェクトチーム）コメント

本取組では、生徒がお互いのよいところに注目し、ポジティブなフィードバックを行う工夫がされている点が素晴らしいです。特に、生徒が書いたメッセージが掲示されるだけでなく、先生方がそれを積極的に活用し、個々の生徒への声掛けや保護者への情報提供につなげている点は、生徒の気づきを広げ、学級・学校全体の肯定的な雰囲気を高める効果的な取組です。